第4章

資料編

参加青年名簿
事業評価アンケート
研修日程
実績

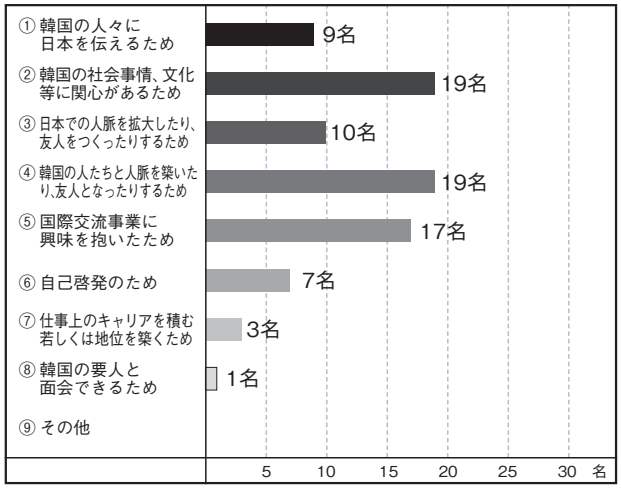
事業評価アンケート

令和元年度　日本・韓国青年親善交流事業（日本青年韓国派遣）

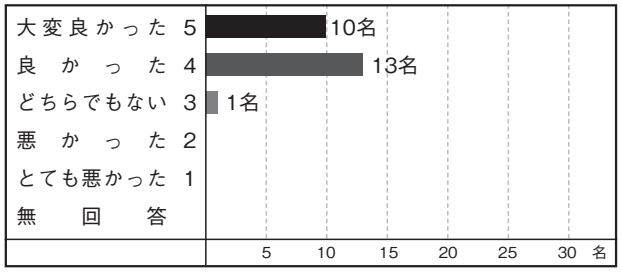
アンケート対象者：団長、副団長、渉外を除く参加青年24名

1. 全体評価

⑴　あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。
（複数回答可）

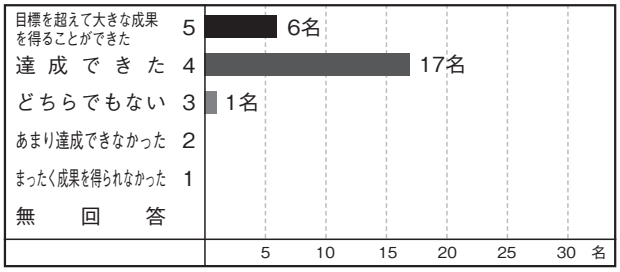


⑵　事業全体をどのように総合評価しますか。



・旅行では行けないところに訪問できたことで、当初の目標を達成することができた。また、このような長い期間集団で共同生活をすることが無かったため、その面でも良い経験ができたように思う。
・日韓の友好関係構築のため、この事業はこの先も長く続いてほしいと願う。また、学びの多い派遣期間を過ごすことができ、自分を成長させることができた。本当に素晴らしいプログラムで楽しかった。
・日韓両国で素敵な人たちに出会えて関わりが持てたことが本当に良かった。事業プログラムとしては、韓国青年との交流が多く設けられている点が良かった。訪問先も派遣として行くため個人旅行で行くようなところではなかったのが嬉しかった。事前研修から大変詰まったプログラムで体力的、精神的に辛いこともあったが、参加して本当に良かったと思っている。

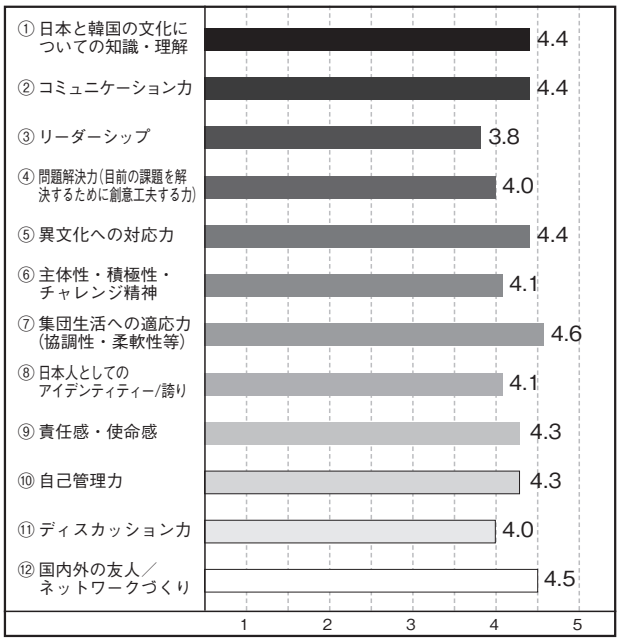
⑶　この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



・日韓友好のために一緒に活動する仲間を増やす。
・ニュースやメディアから知る日韓関係とはまた違う、現地で自分自身が実際の体験を通して知る日本と韓国を知る。
・韓国について深く知り、新たな出会いを大切にする。
・国際交流するにあたって、待つのではなく自分から輪を広げる。

⑷　以下の①～⑫に掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の５～１のうち、該当すると思われる数字を○で囲んでください。（５段階評価）

5：大きな効果があった
4：効果があった
3：どちらでもない
2：あまり効果がなかった
1：効果がなかった

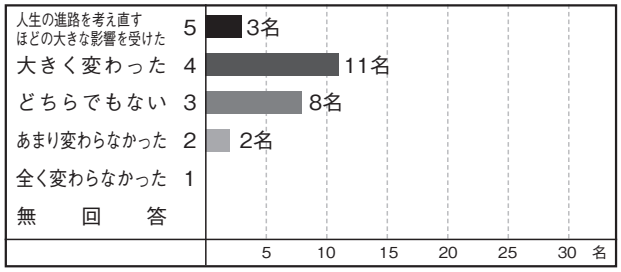


※数値は参加青年24名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

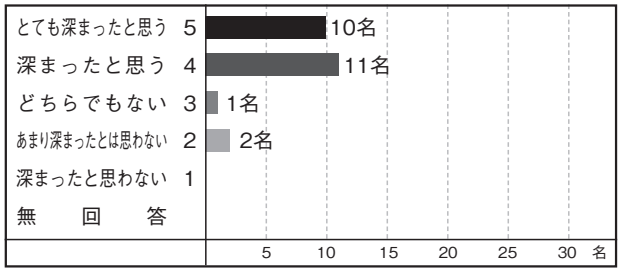
・派遣期間の中で派遣先の国について色々な面を見たと感じた。それと同時に自国である日本を見直す必要があると感じた。
・自分の意見、主体性をしっかり持つこと。
・想像力、企画力。
・コミュニケーション能力と集団生活への適応能力。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



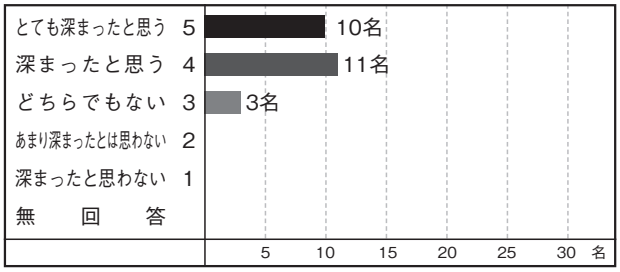
・集団生活での自分の役割やできる事。

(7) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



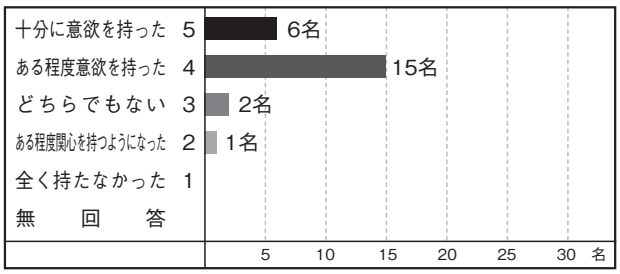
・ディスカッションを通して、日本と韓国、両方の立場を学び相互が理解できた。
・文化の違いについて受け止め理解をすることが出来たと思う。
・ディスカッションや他愛ない会話を通して、相互理解が深まった。
・韓国の方は日本人を嫌っているわけではなく、日本人も韓国の方を嫌っているわけではないということが確認できた。

(8) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか。



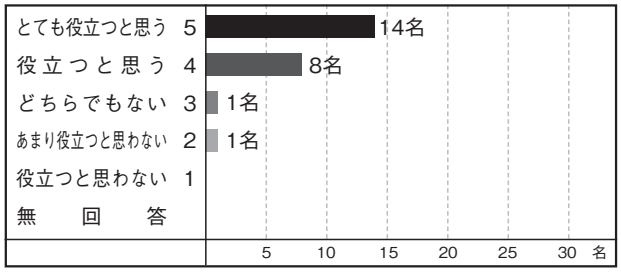
・訪問した施設で現在、日韓関係が悪いが私たちは大丈夫って言ってもらえたり、施設に訪れている人に日本から来たと伝えたら温かく出迎えてくれたのがすごく嬉しくて印象的だった。
・夏に韓国から来ていた今年度の韓国青年の友達に再会できた事が、とても嬉しかった。最後に会ってから約1ヶ月ほどしか経っていないが、お互いが日本語や韓国語を少しずつ勉強していて、会話も以前より弾み、つどいではレクリエーションやディスカッションなどを通してより深い関係を築けたと思う。
・ホームステイ先のご家族が私たちのために前々から何を体験させてくれるか考えてくれていたり、本当の家族のように相談に乗ってくれたり、情を感じた。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



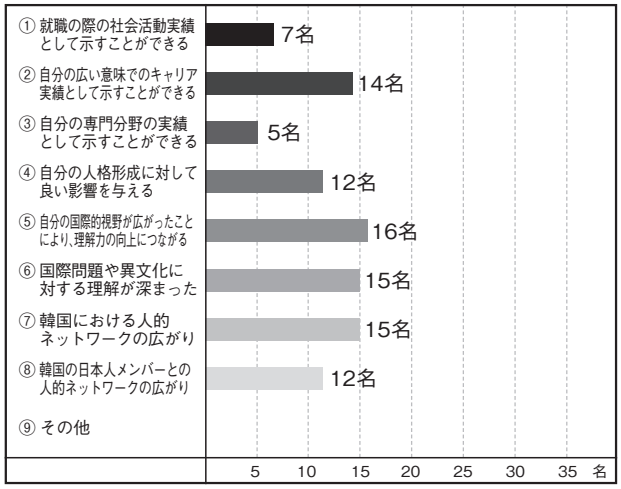
・この事業で私は、派遣前よりももっとチャレンジ精神が強くなったと思う。今までやりたくても躊躇してしまっていたボランティア活動などにも積極的に参加できたらと思っている。
・この事業で学んだことや身につけたことを他の人たちに何らかの形で広めていきたい。
・在大韓民国日本国大使館の宮田さんがおっしゃっていた自分の価値観をどこに置くかによって職種も生き方も変わってくるという言葉が印象的で、今回の派遣中に経験した事から自分がどんなふうに社会貢献ができるのかをしっかり考えたいと思った。

(10)－1　この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



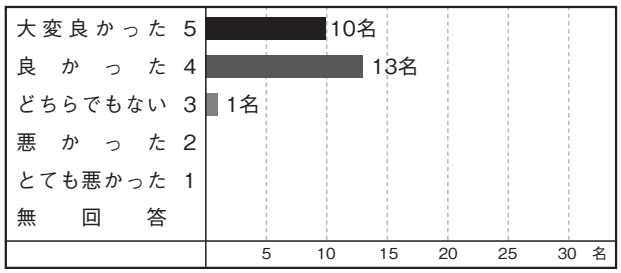
・多文化を知ること、受け入れることが役に立つと思った。
・自分たちで判断して行動する力。みんなで協力すること。
・視野がこれほど広がるとは期待していなかったので、新たな気づきにたくさん出会えて感謝している。今後が楽しみだ。

(10)－2　(10)－1において、5～4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)



2. 訪問国活動について

(1) 訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



・この事業に参加しなければ行くことはなかったであろう地に赴き、交流ができたことがよかった。
・漣川に行けなかったこと以外はとても充実していて楽しめた。情に触れることもできたし、学生との交流会も多かった。お互いの思っていることをメディアを通してではなく生の声として聞き、議論できた経験は宝物となった。

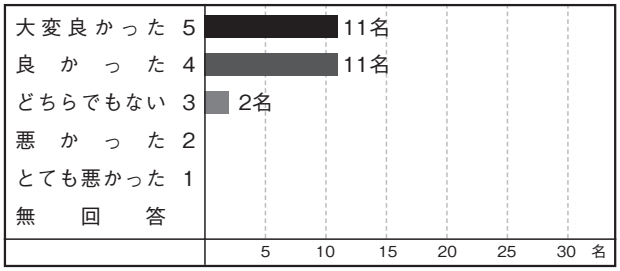
(2) 訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

・現地の人たちの優しさ。国で見ると日韓は関係がかなり悪いが、派遣中の学生との交流、ホームステイなどは本当に楽しいものだった。得たこととしては、以前よりも主体的に行動できるようになった。
・日本文化紹介係の仕事では特に、現地の人に喜んでもらえるように必死に考え、取り組んだ。
・日本にいると、日本人の目線からしか韓国をみることができなかったが、実際に訪問することで、日本のメディアが1つの見方ではないと思った。
・韓国対する理解を深めることが出来たことはもちろん、日本について知らないことが多いことに気づけた。
・韓国人の情をすごく感じました。日本でのニュースの印象とは違いすごくあたたかい人たちでした。

(3) 訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

・団員全員が、自分のことだけではなく、他人に配慮しながら、行動している点。
・日韓青年交流会で恋ダンスを踊り、アンコールをしてくれたこと。自分たちが準備して来たものを評価してくれているようでとても胸がいっぱいになって印象に残っている。
・ホームステイで韓国の日常に溶け込んで文化を学ぶことができたこと。
・ディスカッションや両性平等振興院にてジェンダー問題を扱い、韓国と日本、両国の青年たちと意見を交わしたこと。
・民俗村で韓国の方が優しく声をかけてくださって、日韓関係が悪くなっているとメディアでは言われているが実際の状況は目で見て見ないとわからないと思った。

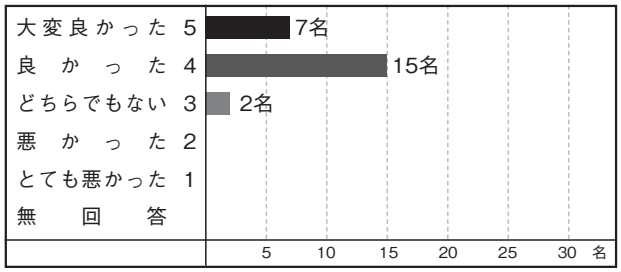
(4) 地元青年との交流をどのように評価しますか。



・同世代の韓国青年との交流会は、お互いの意見を直接聞ける貴重な機会だったので、全北大学やつどいで交

流したのはとても楽しく有意義だった。韓国外国語大学の交流会がなくなったのが残念だった。
・様々な意見がでて、まとめるのが大変だったが有意義な時間だった。
・韓国語と日本語を使い交流を楽しめた。つどいの期間が短すぎるかなと感じた。

⑸－1　施設訪問をどのように評価しますか。



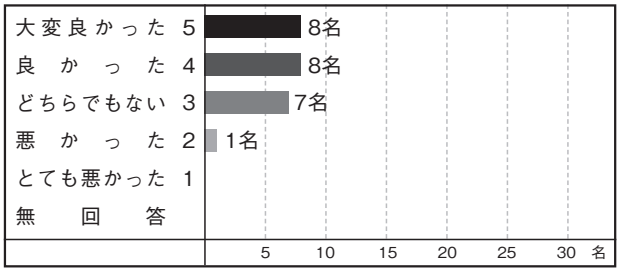
⑸－2　特に印象に残った訪問先を、印象が強い順に3つ挙げ、理由をお答えください

＜大韓民国歴史博物館＞
・韓国側からみる戦争の歴史を知ることができた。
・個人旅行ではきっと絶対行かないところに行くことができ、新たな視点から朝鮮戦争について知ることができた。
・日本ではあまり学ぶことのない朝鮮戦争について、韓国の視点で学ぶことが出来た。
・今までとは違う視点で見ることができ、自分の見方だけで物事を判断してはいけないと気づいた。

＜韓国両性平等教育振興院＞
・元々興味のあるジェンダーをポスターという面白い観点から他の人の意見も知ることができた。
・世代間ギャップや性差について派遣団メンバーと意見を活発に交換することができた。
・自分の悩みについて質問をし、解決することが出来た。
・講義だけでなくポスター作りなどの活動ができた。

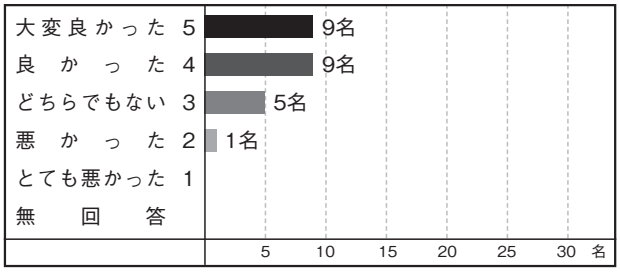
＜日韓青少年交流会＞
・一泊の中で様々なことを語り、ディスカッションで考えを共有し、理解を深めることができた。
・当初の目標であった人的ネットワークを形成することが出来た。
・実際に韓国人の青年たちと密度の濃い交流関係が作れたから。
・自分の想像とは違い少し残念なところもあったが、それでも自分たちの準備して来たものを精一杯発揮し、それを韓国青年と一緒に行えたから。

⑹　合宿型ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



・一晩話をすることで、打ち解けてディスカッションすることができた。
・事前学習のおかげで、有意義な意見交換ができた。

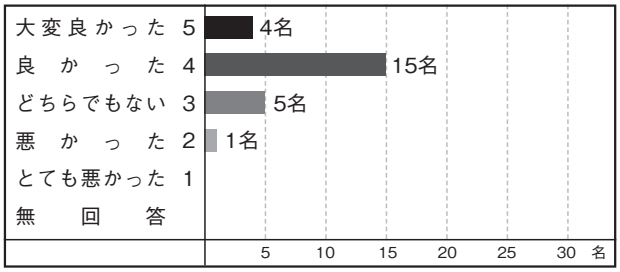
⑺　ホームステイをどのように評価しますか。



・私たちのために様々な準備をしてくださり、あつい歓迎を受けて嬉しかった。
・ほんとにほんとにいい家庭だった。
・韓国の情を感じた。

3. 事前・出発前・帰国後研修について

⑴　研修内容をどのように評価しますか。



⑵　研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれお答えください。

＜良かったところ＞
・韓国で十分に力を発揮するための準備ができた。
・研修によって、団のメンバーの仲をつくることができた。
・団員の中が深まり、事前に訪問先について学習することで知識を身につけてから渡韓することができた。

＜改善すべきところ＞
・スケジュールが少しつまりすぎていること、スケジュールの発表が遅いこと。

・何をしたら良い時間なのか曖昧で、無駄な時間が多かったように思う。

4．事業を終了して

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

・英語や韓国語をもっと勉強して、韓国だけでなく世界をもっと見たいという気持ちが高まった。これからは、IYEOや日韓交流連絡会議を通して世界と関わって視野を広げられたらと考えている。
・韓国語をもっと勉強したいと思い、留学することを決めた。また、ボランティア活動や今後もさまざまな日韓交流プログラムに参加していきたい。
・形成した人的ネットワークを絶やすことなく交流を続け韓国に対する理解を深めながら、語学力をアップさせて職場で生かしていきたい。
・今までの自分より積極的になれたので、大学生活に戻ってもこの事業で得た力を活かしたいと思う。事あるごとに団員が自己肯定感の上がるような言葉をかけてくれて嬉しかった。自信がついた。日本青年との出会いが想像以上の実りだった。短い時間ではあるが、自分の変化が大きかったように感じる。根本的な点は変わらないが、良く変化したところはそのままでいたい。これからの韓国留学も考えている。今後も韓国に関わって行きたいと思う。
・自分が国際交流する際により、充実したものにできるよう、自分のスキルを高めるモチベーションになったので努力を惜しまず、事後活動を続けていきたい。地元宮城の青年たちの国際交流発展に貢献したい。

(2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

・このような貴重な体験を出来たことは私のこれからにとって大きな財産になると思う。
・長いようで短い期間でしたが団員の絆は紡ぐことができたと思う。
・素晴らしい機会を与えていただき感謝している。韓国についての理解が深まり、また日本や韓国において本当に良い出会いがあった。

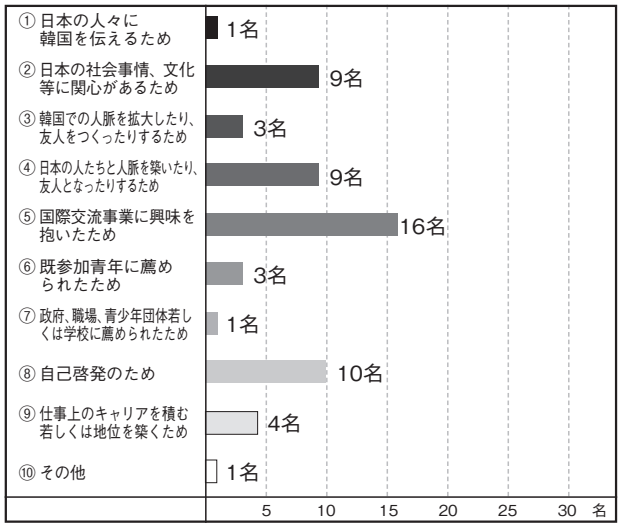
事業評価アンケート

令和元年度　日本・韓国青年親善交流事業（韓国青年招へい）

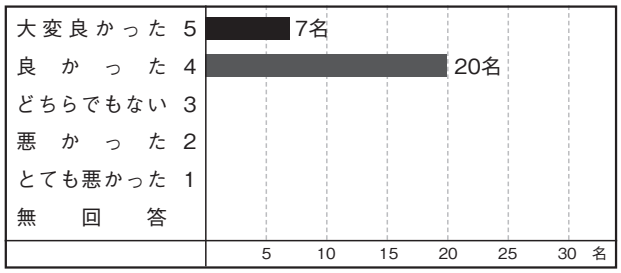
アンケート対象者：団長、副団長を除く参加青年27名

1．全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。（複数回答可）

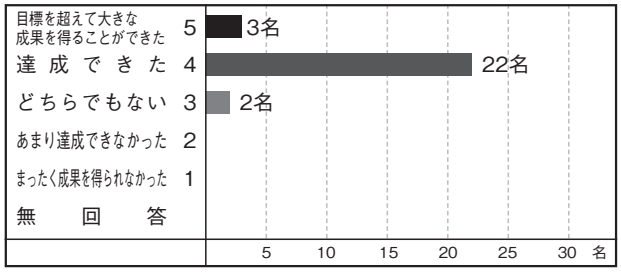


(2) この事業をどのように総合評価しますか。



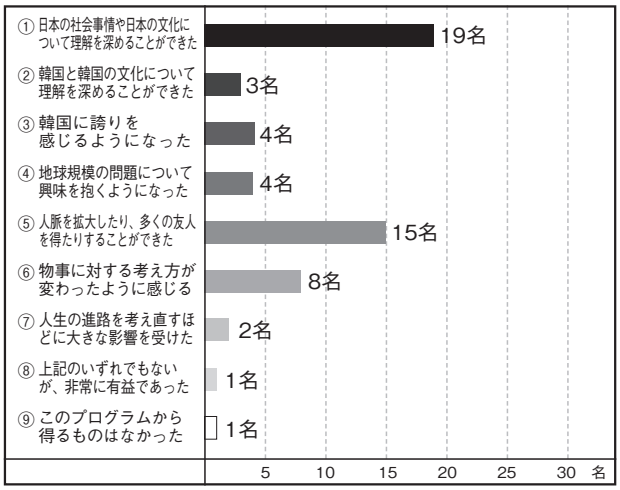
・両国の間にやや冷えた空気が漂う中で行われた事業だったが、多くの日本の方々が暖かく私たちを迎えてくださった。
・表敬訪問、茶道体験、高校訪問、日本青年や高校生とのディスカッションなど、個人ではできないような貴重な経験ができる良い事業だと思う。
・厳しい国際情勢の中でも両国の間には友情と信頼が確かに存在するということが確認できて良かった。

(3) あなたが考えた派遣中の具体的目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



・色々な人に会い、考え方と夢を共有し、理解すること。
・日韓の文化・経済・政治の違いを理解すること。
・「日本らしさ」を自然に受け入れているように見える日本人の姿から、「韓国らしさ」に対する想いを具体化すること。
・日本語の会話の実力を向上させること。

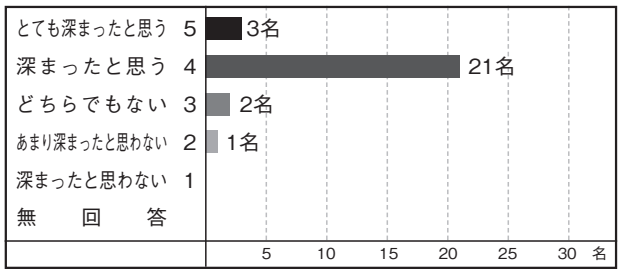
(4) あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。（複数回答可）



(5) この事業から、(4) で示したものの他に、具体的に得られたことがあれば記述してください。

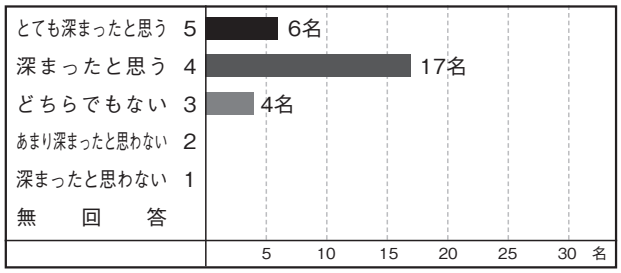
・人の考え方を理解し、自分の考えを正確に伝える能力。
・映像コンテンツでしか接することの出来なかった日本家庭の生活や文化の体験。
・日本人と交流しコミュニケーションをとりながら、相互理解の幅が広がった気がする。
・韓国の伝統文化、地域活性化事業について考えるようになったこと。
・韓国のどの部分が、どれだけ好きなのか、韓国人若しくは韓国のことについてどう思っているのかについて日本青年と話し合う中で、これからの日韓関係はきっと良い方向に向かうことができるという希望が見えた。

⑹ この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか。



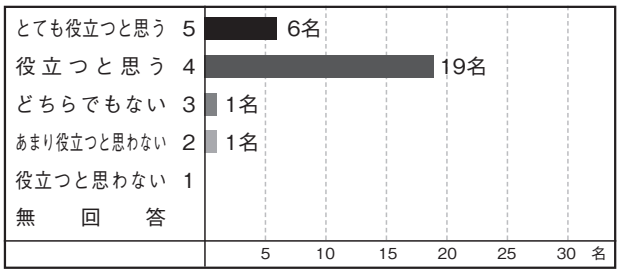
・国対国の関係ではなく、人対人の関係で日本を理解しようとするようになった。
・お箸の使い方といった些細なところから物事への考え方のような大きなところまで、ただ国籍が異なるだけなのに違うということを知り、理解することができた。
・とても有意義な時間だったけど、相互理解が深まるには短いと思う。今後の関係においてお互い努力する必要があると思う。
・多少敏感なテーマについて話し合える雰囲気ではなかったため、本当に気になって聞きたかった部分については話せなかった。専攻・興味に沿ったテーマで深く議論できる場面があればと思った。

⑺ この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。



・大学に日本人の交換留学生が結構いても親しくなる機会はあまり行けなかったが、今回の事業を通じて日本人と直接友好関係を築くことができた。
・今までは日本語は話せても、実際日本人と交流する機会はなかった。今回日本人と直接交流することで日本人との心の距離を縮めることができた。
・日本人の友達と再び出会える日を約束したり、ホームステイを通じて彼らの生活の中に入り込んで一緒に暮らしてみることで、日本人に対する想いが深まった。
・つどいで出会った友達とお互いの国に対して興味を持っているものに対して話し合いながら親しくなり、SNSのアカウントを交換することでこれからも連絡を続けられるようになった。

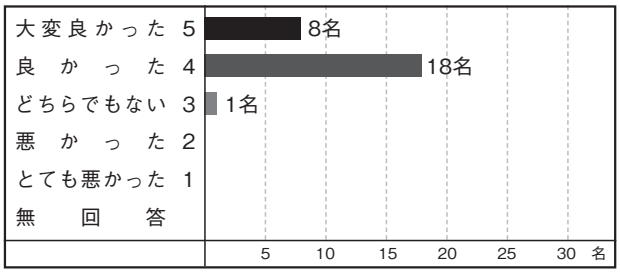
⑻ この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



・物事について考えるとき、表に現れている一方だけでなく、ほかの人の立場や考えも慎重に考えるべきであることを学んだ。
・国際交流のいいところを身をもって体験し、もっと世界に飛び立ちたいと思った。
・色々な人と多様な考え方を共有したり、ある目標に向けて構想・企画してみるという経験は、将来どういう仕事をするにしてもすごく役に立つと思う。
・私は今まで将来のことを「職業」でしか考えたことなかったが、日本人に将来について聞いてみたらなりたい職業ではなく、やりたいことについて話す姿を見て、自分の将来について職業だけでなくやりたいこととは何かについて考えてみるきっかけになった。

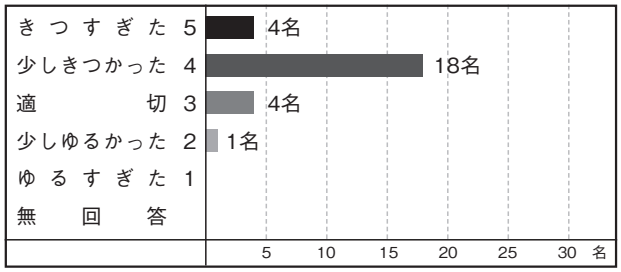
2. 日本での活動について

⑴ プログラムの内容についての全体評価



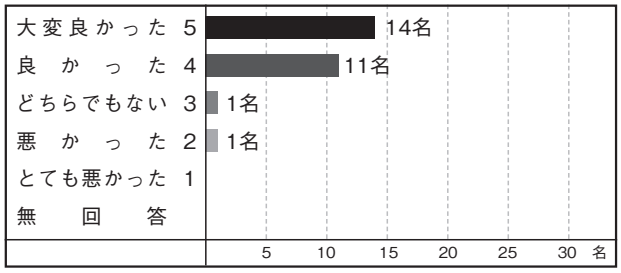
・美濃和紙づくり体験や鵜飼のように、あまり知られていない経験をすることができて本当に良かった。
・日本の伝統文化体験から青年との交流まで多様で充実した活動の中でたくさん学んだ。本当に有意義な時間だった。
・普通の旅行や観光では接することのできない日本の隅々まで知ることができた。
・色々な分野を体験できてよかった。ただ、もともと告知されていたテーマと直接かかわる活動は少なかった気もする。

(2) 日程について



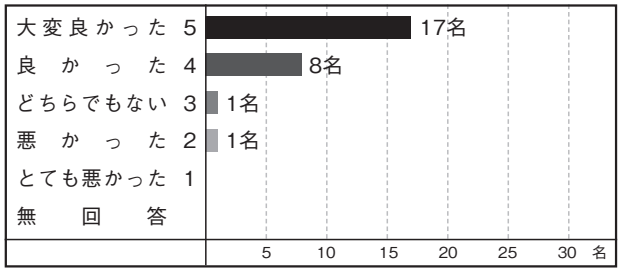
・きつい日程と緩い日程が適度に組まれていて良かった。
・天気の影響もあり思ったより休みの時間が短く、日程がややきつく感じられた。
・屋外と屋内を行ったり来たりして色々な活動をするのは良いけど、暑さに弱い人はちょっときついかもしれない。
・プログラムが充実している分、日程もややきつかった。特に、前半ではホテルで休む時間が足りない気がした。

(3) 東京プログラム　7月24日 認定NPO法人カタリバ（文京区青少年プラザ b-lab）について。



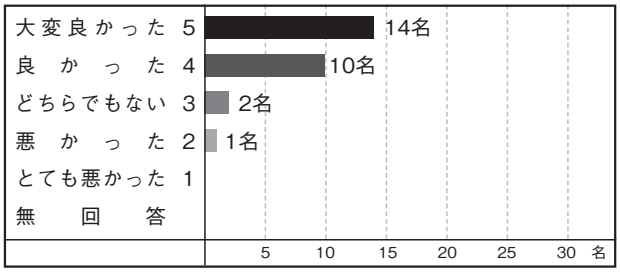
・b-labの視察で青少年政策における日韓の共通点及び相違点を明確に理解することができてすごく良かった。
・青年のための取り組み、そして施設がとても印象深かった。職員の皆さんが青年を心から思っているという気持ちがすごく伝わった。
・日本のNPO法人の運営方法や施設の現状を詳しく学ぶことができてとても良かった。

(4) 東京プログラム　7月24日 裏千家東京道場について



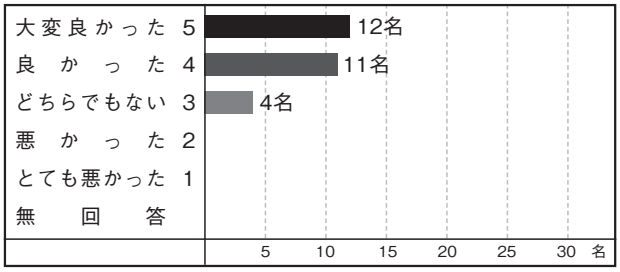
・裏千家の訪問は日本の茶道文化を深く知る機会にもなったし、日本庭園を見物できたこともすごく印象深かった。
・日本の伝統である茶道を学ぶことができた。
・茶道の体験を実際してみるのは人生で中々できない貴重な経験なので、とても有意義だった。

(5) 東京プログラム　7月25日 東京外国語大学について



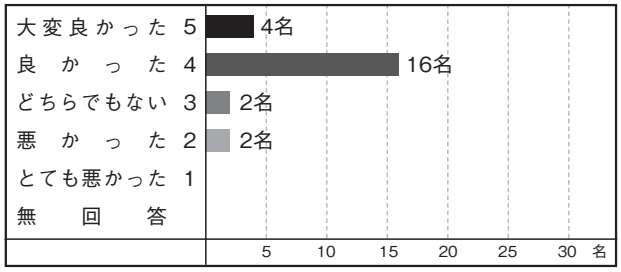
・講義を通じて日本語と韓国語の共通点・相違点について知ることができ、両国を理解するうえで役に立った。
・韓国語が堪能な日本青年と一緒に日韓交流を促進させる方法について意見交換できとても良かった。
・日韓の若い世代である私たちが日韓の友好的未来についてディスカッションしたので、とても意味深いと思う。

(6) 東京プログラム　7月26日～28日 日韓青年親善交流のつどいについて



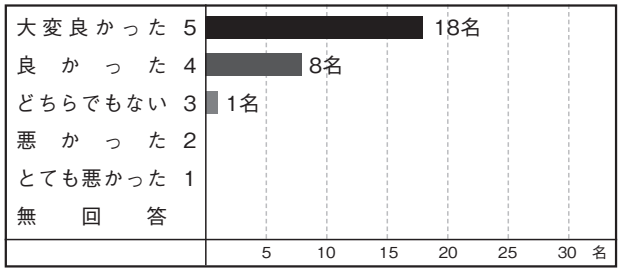
・日本青年と寝食を共にしながら、一番身近なところでの交流を通じてお互いを理解することができた。
・言語は違えども、それを乗り越え一緒にまじりあい、分かち合い、文化を知るとても良い時間だった。
・つどいで出会えた友達との思い出は絶対忘れられない。充実したプログラムでとても楽しかった。
・ディスカッションでたくさんの青年と日韓について議論できたのが印象深かった。
・夜に部屋で日本青年と一緒に自分たちの進路、将来について話し合ったことが最も印象に残る。

(7) 東京プログラム　8月5日 日本青年との都内視察について



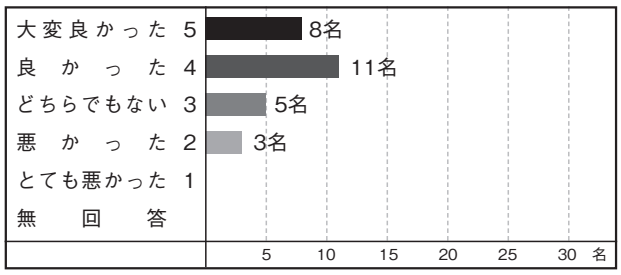
・地元の青年に助けてもらい、安全に東京の文化を経験できたのは良かった。
・ちょっとしたオフ・ザ・レコードの話をする時間になって良かった。
・東京に来たのは初めてだったけど、日本青年に聞くとなんでも優しく答えてくれて本当に良かった。
・日本で今しかできないもの（例：特別展示会）をやってみるのも良いと思う。

(8) 岐阜県プログラムについて



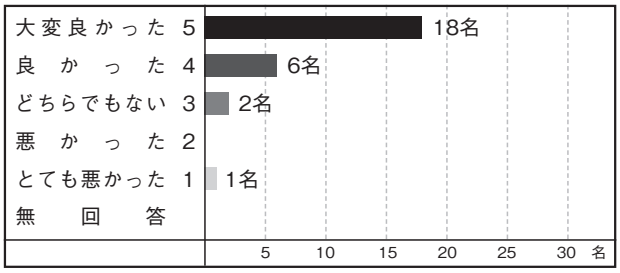
・心より優しく接してくださって、癒しの時間になった。
・伝統を守りそれを一般に公開することで継承していく姿が色々な場面で見られて素敵だと思った。
・福祉施設では少子高齢化の時代、私達に何ができるのかについて考える良い機会となった。
・鵜飼ミュージアムでは鵜飼について学ぶことで、手間のかかる作業を一つひとつ丁寧にやっていく姿と伝統を守っていこうとするその様子がとても印象深かった。
・伝統を文化コンテンツとして生かし利益を生み出そうとする岐阜県のグローカルな試みが印象深かった。

(9) 三重県プログラムについて



・おやつタウンで日本の国民的お菓子であるベビースターを作ることができた。
・自分の夢に向けて走る高校生の姿を見ることができてよかった。
・和菓子の水まんじゅうを作ったり日本の家庭料理を食べることができて楽しかった。
・おやつタウンは対象年齢が青年ではない気がした。

(10) ホームステイについて



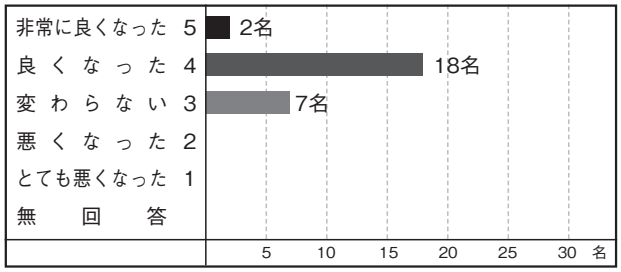
・日本の家庭に直に触れることができて良かった。一家団欒の日々にご一緒できて幸せだった。
・たっぷりかわいがられた。最高だった。
・本当にたくさん色々と優しくしてくださって嬉しかった。お祭りに行ってみたり地元のものを食べてみたりして、とても有意義な時間となった。
・親しくなったホストファミリーと一緒に花火を見たことが一番印象に残っている。

(11) 訪問国活動中、もっとも印象に残ったのは、どのようなことですか。

・外交的に難しい状況だったのでホームステイをすごく心配していたけど、ホストファミリーの皆さんがすごく歓迎し、優しくしてくださった。たくさん話し合う中で、これからの両国が友好的な関係を築いていくためには未来の世代が頑張らないといけないと思った。
・b-labが求める価値と進める方向性がすごく有意義だと思った。
・日本青年の思いやりに本当に様々な場面から助けられた。
・裏千家と鵜飼、そして美濃和紙。日本の伝統文化を知ることができたため印象に残る。

3. 事業を終了して

(1) この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。



・元々良い印象は持っていた。ただ、日本青年が国の関係が悪い中でも韓国のことを好きになってくれて嬉しかった。
・マスコミを通じず、直接日本人と話し合う中で、若い世代はもちろん大人の世代までも日韓が協力していくべきだと思っている方が多いということが分かった。
・日本に対しては今まで都会の様子や経済大国のイメージしかなかったけど、岐阜県・三重県で出会った方々はとても温かく、日本に対して人情溢れる農村・地方のイメージを描くようになった。
・日韓の間では昔から問題が続いているけれど、日本青年との話し合いの中で日本に対する印象が少し良い方向に変わった気がする。

(2) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

・今後エンジニアとして、今回の事業で学んだ「SDGs」を心掛けたい。
・将来アナウンサーとしてお互いに対する刺激的な記事よりも、今後私たちが進むべき方向とその意思を伝えたい。
・一回限りの経験に留まることなく、これからも個人と国家を知ろうとする努力を惜しまない。
・今の両国関係が難しい状況にあるので、この政局を乗り越えられる道を探してみたい。

(3) その他、この事業に関して特に意見・提言があれば記入してください。

・必要性は重々理解しているけど、猛暑の中、正装のドレスコードはやはりきつかった。
・もちろん専門家ではないが、一般の青年でも議論する能力はあると思うので、外交的事案も含め、もう少し踏み込んだ話もできる時間が設けられていたら良かったと思う。
・「青少年政策」という大テーマはあったけれども、それに対する事前情報が少なく、私たちの勉強が足りなかった気がする。資料の基、徹底的な事前勉強ができれば良いと思った。
・日本の伝統の講演や劇を味わう時間もあれば良かったと思う。

研 修 日 程

令和元年度　日本・韓国青年親善交流事業（日本青年韓国派遣）

【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第１日目	第２日目	第３日目	第４日目	第５日目
月日	７月２日	７月３日	７月４日	７月５日	７月６日
曜日	（火）	（水）	（木）	（金）	（土）
8:00					
8:30					チェックアウト
9:00		副団長・渉外ミーティング	YLミーティング	YLミーティング	
9:30		団別研修	副団長・渉外会議 / 団別研修	団別研修	団別研修
10:00		訪問国事情に関する講義			
10:30	団長・副団長・渉外会議		ディスカッションテーマに関する講座（基礎知識）		
11:00					
11:30					
12:00	団長・副団長・渉外昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
12:30	参加青年受付				
13:00		外務省職員による訪問国に関する講義	移動	ディスカッション実演（テーマ：多文化共生）	事後活動について
13:30	開講式				
14:00	オリエンテーション		韓国文化院表敬訪問		派遣に向けて
14:30		団別研修			閉講式
15:00	事業別オリエンテーション			団別研修	
15:30	団別研修				
16:00					
16:30					
17:00	チェックイン		移動	渡航に関する説明	
17:30	夕食	夕食			
18:00			夕食交流会	夕食	
18:30	訪問国活動に関する説明及び団運営に関する講座	団別研修		留学生とのディスカッション（テーマ：「多文化共生」）	
19:00					
19:30					
20:00		OB・OG懇談	団長・副団長・渉外会議 / 団別研修		
20:30	団別研修				
21:00					
21:30	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	

【出発前研修】研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第１日目	第２日目	第３日目
月日	9月16日	9月17日	9月18日
曜日	（月）	（火）	（水）
8:00			＜韓国派遣団＞ 8:30 バス駐車場集合 ↓ 8:45 NYC発 ↓ 9:45 羽田空港着 ↓ 12:05 羽田空港発（OZ1075）
8:30		YLミーティング	
9:00		団研修	
9:30		記録・写真係ミーティング	
10:00			
10:30		ディスカッション係ミーティング	
11:00			
11:30			
12:00		壮行会	
12:30			
13:00			
13:30	受付		
14:00		渡航に関する説明	
14:30		訪問国における注意点及び安全管理	
15:00	オリエンテーション 訪問国活動について	団研修	
15:30			
16:00	団研修		
16:30			
17:00			
17:30	チェックイン		
18:00	夕食	夕食	
18:30			
19:00	団研修 / 団長・副団長・渉外会議	団研修	
19:30			
20:00			
20:30			
21:00			
21:30			

【帰国後研修】研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第１日目	第２日目	第３日目
月日	10月2日	10月3日	10月4日
曜日	（水）	（木）	（金）
8:00	＜韓国派遣団＞ 17:35 羽田空港着（OZ1045） ↓ 19:05 羽田空港発 ↓ 20:00 NYC着		
8:30		YLミーティング	
9:00			チェックアウト
9:30		団研修	
10:00		係別ミーティング	評価会 ①アンケート記入 ②自己評価シートまとめ ③振り返り
10:30			
11:00			
11:30			
12:00		昼食	帰国昼食懇談会
12:30			
13:00		事後活動について ①ＩＹＥＯの説明 ②報告会 ③日韓交流連絡会議	
13:30			成果発表
14:00		事務連絡	修了証授与式
14:30		海外旅行保険の申請	事務連絡 修了証授与（団長から）
15:00			解散
15:30		団長・副団長・渉外会議	
16:00		団研修	
16:30			
17:00			
17:30			
18:00		夕食	
18:30			
19:00		団研修	
19:30			
20:00	チェックイン		
20:30			
21:00	団研修		
21:30			

実　績

日本・韓国青年親善交流事業（日本青年韓国派遣）

回数	年度	期間	訪問地	日数	派遣者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	渉外団員・渉外等	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
1	昭和62年度（1987年）	9/18～10/6	ソウル、東草、慶州、釜山、扶餘	19日	1	2	2	15 (7)	20 (7)			
2	昭和63年度（1988年）	9/29～10/17	ソウル、東草、慶州、釜山、扶餘	19日	1	2 (1)	2 (1)	15 (5)	20 (7)			
3	平成元年度（1989年）	9/28～10/16	ソウル、慶州、釜山、扶餘	19日	1	2	2	15 (8)	20 (8)			
4	平成2年度（1990年）	9/2～9/20	ソウル、温陽、扶餘、慶州	19日	1	2	2 (2)	15 (8)	20 (10)			
5	平成3年度（1991年）	9/12～9/30	ソウル、龍仁、扶餘、忠武、釜山、慶州、東草	19日	1	2	2	15 (8)	20 (8)			
6	平成4年度（1992年）	9/10～9/28	釜山、慶州、扶餘、温陽、東草、ソウル	19日	1	2	2 (1)	15 (9)	20 (10)			
7	平成5年度（1993年）	9/10～9/28	ソウル、利川、大田、光州、光陽、求禮、慶州、東草	19日	1	2	2 (1)	15 (9)	20 (10)			
8	平成6年度（1994年）	8/28～9/15	ソウル、利川、扶餘、公州、釜山、慶州、東草	19日	1	2	2 (1)	14 (6)	19 (7)			
9	平成7年度（1995年）	9/13～9/27	ソウル、清洲、慶州、浦項、江陵、東草、春川、仁川	15日	1	2	2 (1)	25 (15)	30 (16)			
10	平成8年度（1996年）	9/4～9/18	ソウル、慶州、慶南道、蔚山、東草	15日	1	2	3 (2)	34 (25)	40 (27)			
11	平成9年度（1997年）	8/27～9/10	ソウル、慶州、東草、龍仁	15日	1	2	2	34 (24)	39 (24)			
12	平成10年度（1998年）	9/1～9/15	ソウル、木浦、光州、槐山	15日	1	2 (1)	2	33 (23)	38 (24)			

回数	年度	年度	日数	派遣者数（下段は女性参加者数）					役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	渉外団員・渉外等	団員	合計			
13	平成11年度（1999年）	9/29～10/13	15日	1	2 （1）	2 （1）	34 （23）	39 （25）			
	ソウル、平昌、慶州、釜山										
14	平成12年度（2000年）	9/27～10/11	15日	1	2 （1）	2 （1）	34 （25）	39 （27）			
	ソウル、全州、忠州										
15	平成13年度（2001年）	9/5～9/19	15日	1	2	2 （1）	35 （18）	40 （19）			
	ソウル、天安、慶州、順天、光州										
16	平成14年度（2002年）	9/5～9/19	15日	1	2 （2）	2 （1）	24 （15）	29 （18）			
	ソウル、陰城、大田、天安、利川、慶州										
17	平成15年度（2003年）	9/17～10/1	15日	1 （1）	2	2 （1）	25 （17）	30 （19）			（
	ソウル、慶州、平昌、江華島										
18	平成16年度（2004年）	9/7～9/21	15日	1 （1）	2	2 （1）	25 （20）	30 （22）			
	ソウル、天安、慶州										
19	平成17年度（2005年）	9/1～9/15	15日	1 （1）	2 （1）	2 （1）	24 （19）	29 （22）			
	ソウル、天安、全州、釜山、慶州										
20	平成18年度（2006年）	9/6～9/20	15日	1	2 （1）	1 （1）	25 （17）	29 （19）			
	ソウル、平昌、慶州、光州										
21	平成19年度（2007年）	9/9～9/23	15日	1	2 （1）	2 （1）	24 （16）	29 （18）			
	ソウル、平昌、大邱、慶州、浦項、果川										
22	平成20年度（2008年）	9/14～9/28	15日	1	2 （1）	2 （1）	24 （17）	29 （19）			
	ソウル、坡州、果川、安東、江陵、三陟、平昌										
23	平成21年度（2009年）	9/8～9/22	15日	1 （1）	2	2 （2）	25 （17）	30 （20）			
	ソウル、坡州、楊州、慶州、浦項、平昌										

回数	年度	年度	日数	派遣者数（下段は女性参加者数）					役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	渉外団員・渉外等	団員	合計			
24	平成22年度（2010年）	9/2～9/16	15日	1	2	2 （2）	24 （17）	29 （19）			
	ソウル、天安、群山、高興、順天、麗水、求礼、水原、高陽、富川										
25	平成23年度（2011年）	9/14～9/28	15日	1	2 （1）	2 （2）	22 （17）	27 （20）			
	ソウル、加平、華川、三陟										
26	平成24年度（2012年）	9/12～9/26	15日	1	2 （1）	2 （2）	25 （17）	30 （20）			
	ソウル、平昌、世宗、大田、清州、扶余、天安、高陽										
27	平成25年度（2013年）	9/3～9/17	15日	1	2 （1）	1 （1）	24 （18）	28 （20）			
	ソウル、盈徳、浦項、釜山、高陽										
28	平成26年度（2014年）	9/11～9/25	15日	1	2 （1）	2 （1）	25 （20）	30 （22）			
	ソウル、全州、南原、潭陽、順天、光州、高陽										
29	平成27年度（2015年）	9/10～9/24	15日	1	2 （1）	2 （1）	25 （22）	30 （25）			
	ソウル、水原、平昌、江陵、束草、高城、始興										
30	平成28年度（2016年）	8/28～9/11	15日	1	2 （1）	2	24 （21）	29 （22）			
	ソウル、天安、大田、漣川、烏山、水原、始興										

回数	年度	年度	日数	派遣者数（下段は女性参加者数）					役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	渉外団員・渉外等	団員	合計			
31	平成29年度（2017年）	9/13～9/27	15日	1	2（1）	2（2）	25（19）	30（22）			
	ソウル、始興、蔚山、釜山、軍浦、水原、龍仁										
32	平成30年度（2018年）	9/5～9/19	15日	1	2（2）	1	25（22）	29（24）			
	ソウル、江陵、平昌、原州、漣川、平澤、水原										
33	令和元年度（2019年）	9/18～10/2	15日	1	2（1）	2（2）	24（22）	29（25）			
	ソウル、全州、金堤、天安、水原、加平										
計	950（605）										

実　績

日本・韓国青年親善交流事業（韓国青年団招へい）

回数	年度	期間	訪問地	日数	招へい者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	総務団員	渉外団員・渉外等	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
1	昭和62年度（1987年）	7/21～8/6	東京、大阪、京都、奈良	17日	1	2			27（13）	30（13）			
2	昭和63年度（1988年）	7/26～8/10	東京、沖縄、大阪	16日	1	2			27（12）	30（12）			
3	平成元年度（1989年）	7/19～8/4	東京、神奈川、静岡、京都、愛媛	17日	1	2（1）			27（13）	30（14）			
4	平成2年度（1990年）	7/23～8/10	東京、岩手、山形、新潟、群馬	19日	1	2			27（14）	30（14）			
5	平成3年度（1991年）	7/22～8/9	東京、三重、京都市、岡山、山口	19日	1	1（1）			26（14）	28（15）			
6	平成4年度（1992年）	7/20～8/7	東京、北海道、青森、仙台市、栃木	19日	1	1			26（13）	28（13）			
7	平成5年度（1993年）	7/19～8/6	東京、山口、広島市、京都市、滋賀	19日	1	2		2（1）	25（13）	30（14）			
8	平成6年度（1994年）	10/11～10/29	東京、大阪、岐阜、静岡、神奈川	19日	1	1		2（1）	26（13）	30（14）			
9	平成7年度（1995年）	10/9～10/23	東京、香川、山口、大阪市、熊本	15日	1	2		2（1）	35（16）	40（17）			
10	平成8年度（1996年）	10/9～10/23	東京、北海道、青森、大阪	15日	1	2（1）		2	33（13）	38（14）			
11	平成9年度（1997年）	10/22～11/5	東京、北九州市、神戸市、石川	15日	1	1		1	37（24）	40（24）			
12	平成10年度（1998年）	10/14～10/28	東京、栃木、沖縄、和歌山	15日	1	1	1	1	36（24）	40（24）			

回数	年度	期間	訪問地	日数	招へい者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	総務団員		団員	合計	役職	名前	役職（当時）
13	平成11年度（1999年）	11/3～11/17	東京、埼玉、京都市、山形	15日	1	2 （1）		1	35 （24）	39 （25）			
14	平成12年度（2000年）	11/1～11/15	東京、青森、大阪市、栃木	15日	1	1	1	2 （1）	35 （21）	40 （22）			
15	平成13年度（2001年）	11/7～11/21	東京、秋田、京都、北九州市	15日	1	2 （1）	1	1 （1）	35 （19）	40 （21）			
16	平成14年度（2002年）	11/6～11/21	東京、北海道、宮城、大阪市	16日	1	2	1 （1）	1 （1）	35 （27）	40 （29）			
17	平成15年度（2003年）	11/5～11/19	東京、宮城、岐阜、広島	15日	1	1 （1）	1	1 （1）	26 （22）	30 （24）			
18	平成16年度（2004年）	11/3～11/17	東京、山口、岐阜、石川	15日	1	2 （1）		1 （1）	26 （20）	30 （22）			
19	平成17年度（2005年）	11/3～11/17	東京、北海道、岐阜、徳島	15日	1	1 （1）		2 （2）	26 （16）	30 （19）			
20	平成18年度（2006年）	11/1～11/15	東京、北海道、秋田、兵庫	15日	1	1 （1）		2 （2）	26 （17）	30 （20）			
21	平成19年度（2007年）	11/1～11/15	東京、山形、千葉、大分	15日	1 （1）	1		2 （2）	26 （18）	30 （21）			
22	平成20年度（2008年）	11/12～11/26	東京、岐阜、岡山、佐賀	15日	1	1 （1）		2 （2）	26 （15）	30 （18）			
23	平成21年度（2009年）	11/4～11/18	東京、長野、奈良、関西圏（京都・大阪）	15日	1 （1）	1		2 （2）	26 （19）	30 （22）			
24	平成22年度（2010年）	11/3～11/17	東京、京都、愛媛	15日	1	1		2 （1）	26 （16）	30 （17）			

回数	年度	期間	日数	招へい者数（下段は女性参加者数）						役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	総務団員	渉外団員・渉外等	団員	合計			
25	平成23年度（2011年）	11/3～11/17	15日	1	1		2 （2）	25 （16）	29 （18）			
	東京、愛知、大分											
26	平成24年度（2012年）	10/31～11/14	15日	1	1		2 （1）	26 （21）	30 （22）			
	東京、京都、徳島											
27	平成25年度（2013年）	11/7～11/21	15日	1	1		2 （2）	18 （11）	22 （13）			
	東京、山口、北海道											
28	平成26年度（2014年）	11/6～11/20	15日	1 （1）	1 （1）		2 （2）	26 （13）	30 （17）			
	東京、秋田、和歌山											
29	平成27年度（2015年）	10/27～11/10	15日	1	2 （1）		2 （2）	22 （12）	27 （15）			
	東京、宮城、鳥取											
30	平成28年度（2016年）	7/20～8/3	15日	1	2 （1）		2	25 （17）	30 （18）			
	東京、愛知、滋賀											
31	平成29年度（2017年）	7/26～8/9	15日	1	2 （1）		3 （2）	24 （16）	30 （19）			
	東京、京都、島根											
32	平成30年度（2018年）	7/24～8/7	15日	1 （1）	2		3 （2）	24 （15）	30 （18）			
	東京、滋賀、岐阜											
33	令和元年度（2019年）	7/23～8/6	15日	1	2 （1）		2 （1）	25 （16）	30 （18）			
	東京、岐阜、三重											
計	1051（606）											

第33回
日本・韓国青年親善交流事業

発　　行：内閣府
〒100－8914
東京都千代田区永田町1－6－1
TEL：03－6257－1436
FAX：03－3581－1609
URL：https://www.cao.go.jp/koryu/

編　　集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103－0013
東京都中央区日本橋人形町2－35－14
東京海苔会館６階
TEL：03－3249－0767
FAX：03－3639－2436
URL：http://www.centerye.org/

印　　刷：株式会社 長正社